

江口きち 歌人。17歳で一家を支え始め、悲惨な生活なか名作創るも耐えきれず、自ら命を絶った。"女啄木"。

えぐちきち

大正政変・1913 = 生。父熊吉は千葉県生れの博打渡世人，母ユウは栃木県の生れ。

この夫婦は明治42年ころ流浪の果てに群馬県利根郡川場村の博徒金五郎親分のところにわらじをぬいだ。きちは長女で，上に精神障害の兄広寿があり，4つ下に妹たきがいた。父熊吉は正業につかず，母ユウが小さな家を借りて，うどん・馬肉・酒などを商う栃木屋という店を出して生計を支えた。

原敬首相暗殺1921 = 8歳：

水平社結成・1922 = **9歳**：

共産党事件・1928 = 15歳：川場小学校を優秀な成績で卒業し，

世界恐慌・1929 = 16歳：沼田郵便局につとめたが，

海軍軍縮条約1930 = 17歳：***母が51歳で急病死したので，きちが栃木屋を継ぎ，労働不能の状態になっていた父と兄を抱え，生活苦に耐えながら歌を詠む。14歳の妹は美容師になるために東京に出る。**

満州事変・1931 = **18歳**：河井醉茗・島本久恵の出していた*女流文芸誌{女性時代}に飯田章子の筆名で短歌を投稿，

次第に歌作に力を入れ，"天つちの叛逆もあれわれはわが行くべき道を譲らじと思ふ"。選者今井邦子は推賞してやまなかった。短歌・長歌・詩は1000余を数える。

日中戦争始・1937 = 24歳：群馬県歌人協会に入会。**生活苦に耐えきれず，**

総動員+健保 1938 = 25歳：{女性時代}社例会に出席後，***'大いなるこの寂けさや天地の時刻あやまたず夜は明けにけり'の歌を書き置き，兄を道連れに自殺した。**

河井・島本らにより日記と367首の歌が選ばれ，翌年「馨の麓」として刊行された。自殺の裏には村の妻子ある名望家宮田某との恋愛関係があり，このことを書いた手記などを収めた「江口きちの生涯」(島本久恵著)が昭和42年に出版された。